

2024年度事業計画

自 2024年 4月 1日
至 2025年 3月31日

『せめる まもる UBA』

I. 基本方針

令和6年1月1日午後4時10分ごろ、石川県能登地方を震源とするマグニチュード7.6、最大震度7の能登半島地震が発生しました。その被害は報道等で知るところではありますが、UBA会員の中にも甚大な被害を受け、今なお復旧の目途さえ立たない状況で頑張っている仲間がいる事を知っていただきたいと思います。全ての被災者の皆様に衷心よりお見舞いを申し上げますとともに、支援金に協力していただいたUBA会員の皆様にも改めて感謝を申し上げます。

さて、日経平均株価は令和6年3月22日に過去最高を更新し、政府はデフレマインドからの完全脱却を掲げ、ええ波に乗れるよう価格転嫁を含め中小企業の支援を推し進めています。様々な外的要因がある中で、改めて日本のものづくりが評価されているからこそその株価の上昇であると考えられ、そのものづくりや社会サービスを支えているのは紛れもなく我々中小零細事業者であります。しかしながら円安による原材料高や少子高齢化が進む中で事業継続や事業承継に不安を抱える事業者は少なくありません。我々全国UBAではこの不安に向き合うべくサミットや全国講習会を通し、情報や思いを共有してきました。

1990年にバブルが崩壊し、2年後の1992年、「全国中小企業青年中央会」は発足しました。コロナ禍を経て、発足以来最大の環境の変化が起きている今、全国UBAはその在り方や存在の意味を改めて自ら問う必要があります。全国中小企業団体中央会の中核を担う団体として、より有意義な組織へと自ら変革していく責任があります。各都道府県での素晴らしい取り組みや大変な現状を共有し、組織や個の魅力を互いに発信し、交流することで新たな流れを生みたいと考えています。事業継続力強化計画の推進など、組合青年部として守るべきところは守る。DXやGX、生成AIの活用など、既成概念にとらわれずに中小事業者として攻めるところは攻める。講習会やサミット等で組合青年部全体の底上げを図りながら個企業の持続的な発展を目指します。そこで、本年度のスローガンを『せめる まもる UBA』とし、甲辰の2024年、いまだ誰も経験したことのない未来への責任と役割を持って以下の事業に取り組みます。

II. 実施事業

1. UBAサミットの開催

都道府県青年中央会・協議会等の代表者が一堂に会し、情報共有・情報交換を行うことにより、組織の強化を図るとともに、都道府県青年中央会・協議会等に所属する各企業の活性化を図っていく。

2. 全国中小企業団体中央会との協力・更なる青年部活動支援のための連携強化

11月15日（金）に長崎県長崎市において組合青年部全国講習会（主催：全国中小企業団体中央会）開催が予定されており、この企画・運営等に積極的に協力していく。

また、全国中小企業団体中央会の事業である『組合青年部活性化研究会』に協力し、組合青年部の活性化に資する検討を行なう。

さらに、10月24日（木）開催予定の第76回中小企業団体全国大会（フェニックス・プラザ：福井県福井市）および、12月4日（水）～6日（金）の全国中小企業団体中央会主催「新ものづくり・新サービス展」（東京ビッグサイト）に対する協力による青年部活動への支援拡大を図る。

3. 組合青年部設立促進への協力と都道府県青年中央会・協議会等への加入促進活動への展開

『組合青年部組織・運営指針』等を活用し、全国中小企業団体中央会並びにブロック青年中央会及び都道府県青年中央会・協議会等と連携することで、青年部未組織組合に対し青年部の設立を呼び掛けるとともに、未加入の組合青年部に対し加入の呼び掛けを行っていく。

4. 被災地域の組合青年部関係者に対する支援

各被災地域の現状などを全国に発信できる場を設けることによって被災地域への継続的な支援を行っていく。

5. 全国青年友好4団体トップ会議の実施

全国商工会青年部連合会、公益社団法人日本青年会議所、日本商工会議所青年部と本会が集まる『全国青年友好4団体トップ会議』をはじめとする各種会合に出席し、本会の活動をPRするとともに経済人としての連携促進の機会と創造を図っていく。

6. 組合青年部活性化のための情報提供並びに、協力・連絡・組織体制の確立

都道府県青年中央会・協議会等、組合青年部に関する情報提供を行うため、情報発信等の充実を図り、会員間の情報交流の活発化を図っていく。

7. UBAの活用促進

UBAのロゴと呼称の活用を呼びかけ、会員や友好団体等への周知を促して本会への理解を深めるとともに、全青中活動の更なる活性化を図ることを目的としたUBA活用促進事業として、UBAバッジやUBAネームプレートの会員への販売を励行する。